

神戸の朝をお届けします 🌄

港町神戸は日本でも有数の観光スポット。
歴史情緒溢れる街はおしゃれでしかもどこかレトロな雰囲気もたっぷり。
そんな神戸の「朝」は一日の素敵な始まりを告げてくれる心地よい時間。
+NUKUMORIはキラキラ輝く神戸の朝にピッタリなアイテムを
あなたにお届けします。



NPO 法人

兵庫セルプセンター

2018 年度 事業報告



私たちは障がいのある人たちの
働く願いと、作業所の元気を
社会につなぎます。

■ 法人概要

- 名称 特定非営利活動法人 兵庫セルフセンター - Non Profit Organization Hyogo Selp Center -
- 設立 2004（平成 16）年 1 月 26 日 設立
- 所在地 651-0062 神戸市中央区坂口通 2-1-1 兵庫県福祉センター6 階
- 連絡先 TEL : 078-414-7311 FAX : 078-414-7312
- H P <https://www.hyogo-selp.jp/>
- MAIL contact@hyogo-selp.jp
- 代表者 理事長 山崎玲輔
- 事業目的
(定款 3 条) この法人は、障害福祉サービス事業所等に対して、販路拡大、障害者の職域開拓及び人材育成等の事業を行政、企業、地域住民等と連携して行うことにより、障害者の自立支援、社会参加、収入向上を推進し、障害福祉の増進と誰もが生き生きと働き、暮らせる社会づくりに寄与することを目的とする。
- 事業内容
(定款 5 条) (1) 障害福祉事業所の商品等の販路拡大を支援する事業
(2) 障害者の福祉的就労を支援する事業
(3) 障害福祉に関わる人材育成・研修事業、啓発活動及び障害福祉事業所の運営を支援する事業
(4) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス事業
(5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2018 年度 事業報告



設立 15 年目を迎えた 2018 年度は、障害福祉サービス事業所と社会をつなぐ兵庫セルフセンターの事業目的をより明確にするために通常総会において定款の変更を行い、兵庫県委託事業・神戸ふれあい工房店舗運営・障害福祉サービス事業「マイ・ワーク S E L P」の運営を通じて、各拠点・部門間が連携した販路拡大等の中間支援機能の強化に注力した。

中間支援と福祉サービス事業の連携については、グループウェアや IT ツールを駆使した情報共有を進め、受注案件の進捗管理等を共有することで業務効率化に一定の成果を得た。また業務の属人化防止と新人職員の早期の業務把握を狙い、定期的に業務マニュアルミーティングを実施し、業務マニュアルの明文化と改善を実施した。

課題としては、

- ① 明確なメニューとして提供出来ていない運営支援の具体化
- ② 行政等への政策提言機能の強化
- ③ 福祉サービス部門の収益化及び事業所の移転

が挙げられる。

①②については、正会員の事業所を中心とした事業所ネットワークの強化支援や構築支援を進めることで、兵庫県社会就労センター協議会との連携のもと、多様な中間支援の形を模索して行く。
③については、請求事務に IT ツールを導入することで利用者支援を強化し、利用者の定着を進めるとともに支援の軸を定め中間支援と連携した特色ある事業所運営を目指す。

- 販路拡大支援事業 -

売上実績	55,480,597 円
前年度実績	53,442,114 円
前年対比	103.8%

セルプセンターが契約主体となる売上実績はわずかでありますが前年を上回った。

企業と事業所での直接契約や事業所への仲介案件の増加はここ数年意図して取り組んでいることである。

2018 年度においては、清掃の年間契約（約 160 万円）

をセルプセンターから事業所へ契約主体を移管したにもかかわらず売上は伸びた。

「セルプセンターが受注して定期的の仕事とし事業所につないで行く」ということが、販路拡大支援の一つの成功モデルになる可能性を示す事例ではないかと考える。案件紹介を含めた仕事の受注量増大のためには、新たな分野の受注が重要であり、企業等との協業や他分野の専門家と連携した受注活動も今後試行する必要性を感じている。

- 福祉的就労支援事業 -

◆ 共同受注、しごと開拓

セルプセンターが契約主体となった実績は前項の通りである。地域ネットワークとの協働を図り、西播磨地域優先調達研修・連絡会への講師派遣・会議出席、兵庫県知的障害者施設協会生産活動・就労支援研修会への講師派遣、三田地域共同製品プロジェクト会議、たじまびつくり箱実行委員会等の地域ネットワーク会議に出席し、意見交換等を行った。

+ NUKUMORI ブランドの周知・PR を県広報誌、ラジオ、フェイスブック・インスタグラム等の SNS を通じて実施するとともに、障害者アート作品を使った包装紙を企画製作した。インターネットを使った PR に関しては、楽天市場に「神戸の朝」をキーワードとした商品を掲載したショップを開設し、上記の SNS とも連携した新規顧客への PR を実施した。

◆ 農福連携

みずほ協同農園の協力を得て、企業が運営する農場において事業所職員に農業専門家が継続的に研修を実施する「障害者アグリファーム事業」を新規に取り組んだ。5月から3月までの全 11 回に 9 事業所が継続的参加し、企業が経営する農園の作付け計画に沿った講義と実技を学んだ。事業所の営農計画に反映されるにはもう少し時



間がかかると思うが、農福連携への関心が高まる背景もあり、新規に農福連携に取り組む事業所への情報提供にもつなげていきたい。

◆ 専門家派遣、技術向上支援

事業所からの申請に基づきパティシエやデザイナー等の専門家を、年間を通して 47 事業所へ延べ 67 回派遣を行った。そのうち農業関係が、17 事業所 26 回であった。

専門家派遣事業と絡めた商品開発や商品コンテスト（スウィーツ甲子園、グルメ甲子園）参加事業所へのアドバイス支援も実施し、事業目的である工賃向上を図った。自ら申請書を記入する形式であるので、積極的に本事業を活用する事業所がある一方で、申請に至らない事業所への周知と希望する分野の専門家とのマッチングは課題として残っており、事業目的である工賃向上に向けては、申請書の事業計画の修正を依頼し、派遣分野の整理と派遣目的の整理をした上で実施する案件の増加が予想される。

- 人材育成・研修事業 -

共同受注関連では、西播磨地域優先調達研修・連絡会、兵庫県知的障害者施設協会生産活動・就労支援研修会への講師派遣を行った。その他にも、「NPO 法人しゃらく」が企画した「多様性を強みにするこれからはたらくをつくる」セミナーに講師を派遣し、福祉事業所と他分野との連携について情報交換等を行った。

「NPO 法人ドットジェイピー」から大学生のインターンシップ生 2 名を 2 ヶ月間受け入れ、販売現場での企画や販売実務等を提供し、障害福祉の仕事の魅力を外部に発信することを試みた。

兵庫セルフセンター内部で進める IT 導入による事務効率化は、内部での改善は進みつつあるものの会員等事業所へのフィードバックする段階には至っておらず、課題



として残っている。

また、過去 2 年間実施してきた自主企画セミナーである「未来を担う福祉人財 (材) セミナー」は、セルフセンター若手職員のスキルアップも意図し、セミナーの内容から見直し、検討会議を複数回行ない、2019 年度の実施企画を計画した。(2019 年 5 月開催予定)

各事業の推進及び新事業の創出等へ向けて、他府県(愛知県・滋賀県・京都府等)の福祉事業所等の先進事例を視察及び検証した。

- 障害福祉サービス事業 -

訓練等給付費 2018 年度	15,748,036 円
前年度	17,196,772 円
前年対比	91.6%

利用者定着に至らず(8 名退所)訓練等給付収入は減額であった。しかし内 1 名は一般就労者であり当事業所開設依頼初めて 6 ヶ月以上継続雇用を達成した。就労支援については更に継続して進めていきたい。

ここ数年は、役員を講師に毎月、チーム支援の実践や情報共有を目的に職員ミーティングを実施して来たが、中間支援団体が運営する福祉サービス事業所としての支援の軸を再構築し、課題が浮き彫りとなった利用者の獲得、定着に対処して行きたい。

就労訓練新たな取り組みとして、コミュニケーションに不安を抱える利用者が多い中で、利用者が主体的に発



言や会話を促進できるよう、毎回テーマを設定したグループワークを 8 回実施した。

請求事務効率化のために IT ツールの試行を実施し、運用面で目処がたったことは、利用者支援への注力という観点から有益であったと考える。

このような IT 導入のみならず、中間支援団体が運営する特色ある事業所として、モデル事業を創出するためのステップ期間と捉え、販売拠点の移転も含め様々な試行を実施する方針である。